

伊勢湾貧酸素情報（第 4 報）

三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

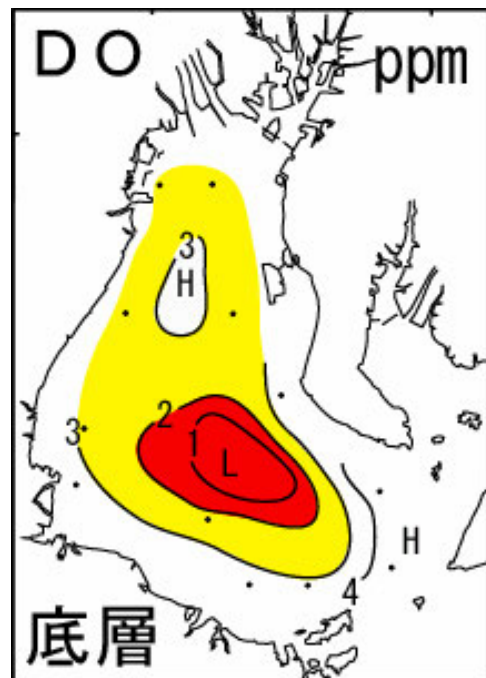
伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、湾中央部で 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

9 月 8 日の調査結果

9 月 8 日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 23.9～26.3℃，10m で 24.4～25.2℃，底層で 20.9～25.2℃の範囲にあり，表層ではやや低め，10m でやや高め，底層では高めとなっていた。塩分は表層では 11.39～26.21，10m では 29.93～31.81，底層では 31.19～34.17 の範囲にあり，表層ではかなり低め，10m と底層では平年並となっていた。DO（溶存酸素量）は表層では 4.4～8.3ppm，10m では 3.4～6.5ppm，底層では 0.3～4.6ppm の範囲にあり，表層ではやや低め，10m ではやや高め，底層では湾口部を除く，広範囲で 3ppm 以下となっていて、湾中央部では 1ppm 以下であった。

調査時は台風 12 号による降雨の影響で河口付近の表層は塩分がかなり低下していた。また、台風による風波で底層の 2ppm 以下の貧酸素水塊は先月よりも小さくなっていたが，湾中央部では 1ppm 以下のままであった。

表層では低塩分，底層では高塩分傾向にあるため，上下混合が起こり難い状態であることから，すぐに貧酸素水塊が消滅するとは考え難く，今後も貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。



底層貧酸素水塊分布